

高等学校第1学年 国語「現代の国語」



**クラウドのワークシートを活用して自分の考えをまとめ、
端末を活用した話合いで考えを深める。**

■単元の目標

- (1) 推論の仕方を理解して使うことができる。〔知識及び技能〕(2)ウ
- (2) 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力〕B(1)イ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

■単元の概要

指定されたテーマに基づき、推論を活用して意見文を書く。

■単元の指導計画（5時間）

第1次（1時間）

推論とは何かをワークシートで確認する。「イースター島」についての説明文を読み、筆者の主張に対する自分の意見をまとめ、「イースター島が栄え続けるために必要であったこと」について、グループで意見交換する。

第2次（2時間）

自らの主張を明確にした上で、自分の意見を論理的に説明するための推論、根拠となる情報とその量、読み手の理解を得るための論理構成を考え、ワークシートに記載する。ワークシートの内容をもとに、グループで協議を行う。

第3次（2時間）

第2次の学習を踏まえ、意見文を1200字で書き、各自で書いた意見文を生徒同士で相互評価する。全体の振り返りを行う。

■主な時間の概要

オンデマンドで実施できるワーク(Google Formsで教師が作成)に取り組みさせることで、推論について理解を深める。筆者の主張に対する自分の意見をクラウドにまとめ、他の生徒がコメントを付すことで、自分の主張について異なる視点からも考える。

「一般的な知識を持つ大人に向けて、地域のニュースレターに掲載する意見文」を書くこととし、クラウドのワークシートに、主張、推論、根拠資料、構成をまとめる。グループをつくり、同じグループの生徒のワークシートを事前に確認し、推論や根拠資料、構成が適切であるかを考え、適宜コメントを記入していく。その後グループでの話し合いを行う。

グループで意見文を読み合い、相互評価を行う。評価の観点については、事前に示しておく。相互評価は、第2次の学習を踏まえて、自分が意見文を書く時に工夫した点などと比較しながら、良かった点だけではなく、改善すべき点についても伝え合う。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2次）

【学習活動の場面】（第2次）

自らの主張を伝え、読み手の理解を得られる意見文にするために、文章の構成等を考える。クラウドのワークシートに主張、推論、根拠資料、文章構成を書き込み、それについて、グループで協議をする。

【生徒の「深い学び」の姿】

Aは、「イースター島の持続可能性確保のためには、自然資源を体系的に管理することが必要である。」という主張を導くために、「島の衰退は森林の過剰伐採によるものであり、主要樹木であるヤシなどの保全に取り組んでいけば、衰退は防げたはずだ。」という推論を立てた。ワークシートには、その推論とともに「イースター島の生態系」「当時の人々の生活の様子」などの根拠資料を整理し、どのようにしてその考えに至ったかを記載した。グループでの話し合いでは、以下のような視点の意見が出た。

B「島の衰退原因は森林の過剰伐採だけではなく、他の要因もあるのではないか。」

C「解決策として、主要樹木の保全だけでは不十分であり、木を使わない生活様式への転換も必要だったのではないか。」

D「当時の人々にそもそも「森林保全」という考え方があったのだろうか。」

話し合いを踏まえ、端末を活用して林野庁のホームページ等を使って情報を調べ、日本では江戸時代に森林保全の考え方が存在していたことを知った。（AIチャット等も活用し、様々な情報を集めた。）

話し合いや調査結果を受けてAは、「森林保全によって衰退は防げた」という当初の主張を、根拠がより明確で焦点化された主張となるよう構成を修正した。また、日本に「森林保全」の考え方が起こった経緯等を根拠とし、当時の現場において「森林保全」という考え方を広めるための方策を考え、「自然資源を体系的に管理することが必要」という主張をより説得力のあるものにした。Aは、他者との対話を通して思考を広げ、情報を主体的に収集・吟味し、自らの主張をより論理的で根拠に基づいたものへと深化させた。

【当該指導での「深い学びの姿」】

Aは、話し合いを経て、島の衰退要因を焦点化するとともに、「住民の価値観の転換」の必要性について示すことで、より説得力のある構成や論理展開になると考えた。また、話し合いで、他の生徒がAの主張や推論について核心的な指摘ができたのは、クラウドで、「主張」「推論」「根拠資料」の要素を各自が整理して提示し、それぞれの思考過程が事前に共有されていたからである。これにより、他の生徒は互いの考え方を熟考する時間をもつことができ、対話の質が高まることで、より深い学びにつながったと考えられる。



■指導上の工夫とICTの利活用

①クラウドのワークシートを共有する。

*全ての生徒の学びの状況を参考にできる環境をつくることで、個人学習でも、他の生徒の視点や考え方を参考にしながら、自分の考えをまとめることができる。

また、本単元では、意見文を書くために、根拠とする情報の分量や重要度を吟味する必要がある。この時、クラウドのワークシートに情報源のアドレスを貼り付けて示すことで、その情報をすぐに確認できるため、話し合いの時の情報の吟味がよりスムーズに行える。

②話し合いの前に、他の生徒のワークシートについて確認する時間を確保する。

*この場面では、他の生徒のワークシートを評価すると同時に、自分の推論や文章構成についての考え方が正しかったかどうかを考えさせている。各自が同時に他の生徒のワークシートを確認し、個人学習でゆっくり考える時間を確保できるため、それぞれが自分の考えをもってグループ活動に取り組むことができ、グループ活動の充実につながる。

③疑問を放置せず全員で解決し、話し合いを充実させる。

*AIチャット等の活用を可能とし、話し合いで生まれた疑問は、全員で追究し話し合いを深めさせる。調べた情報についてはグループ全員でその正しさを検証する。

【活用したソフトや機能】
Googleスプレッドシート

学習指導要領や解説との関連

高等学校学習指導要領 第2章 第1節 国語

第2款 各科目 第1 現代の国語 2 内容

〔知識及び技能〕（2）

ウ 推論の仕方を理解し使うこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くこと（1）

イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。

出典：高等学校学習指導要領P33,34

読み手の理解を得るとは、自分の主張を筋道立てて主張し、読み手にその内容を正しく捉えてもらうことである。論理の展開を考えるとは、結論や主張を導くための筋道の通った考えの進め方について考えることである。また、情報の分量や重要度など考えるとは、文章の構成や展開を工夫する際に、読み手の関心や知識などを想定した上で、読み手との共通点や相違点が明確になったり、伝えたい情報を的確に伝えたりできるように、情報の分量の多寡や重要度の高さ、情報の種類などを考えるということである。文章の構成や展開については、〔知識及び技能〕の（1）のオのうち、「文章の効果的な組立て方や接続の仕方」との関連を図った上で、想定する読み手や伝えたい情報などに照らし合わせ、頭括型、尾括型、双括型などの文章の組立て方や、推論の仕方を使い分ける必要がある。

出典：高等学校指導要領（平成30年告示）解説国語編P94